

柳川市ワンヘルス推進大会

－ 講演録 －



日 時 令和5年2月7日（火）
場 所 柳川市民文化会館「水都やながわ」白秋ホール
主 催 柳川市

【プログラム（目次）】

1. 開会	・・・	1
柳川市長 金子 健次		
2. 来賓紹介・あいさつ	・・・	3
福岡県ワンヘルス推進協議会顧問・福岡県議会議員 藏内 勇夫 様		
柳川市議会 議長 近藤 末治 様		
福岡県議会 前議長 秋田 章二 様		
福岡県議会議員 椛島 徳博 様		
福岡県議会議員 板橋 聡 様		
一般社団法人 柳川山門医師会 会長 龍 元昭 様		
代表あいさつ 藏内 勇夫 様		
3. 福岡県におけるワンヘルスの取組について	・・・	6
福岡県保健医療介護部保健医療総務課		
ワンヘルス総合推進室長 左藤 秀樹 様		
4. 基調講演「人と動物の健康を考えるワンヘルス」	・・・	14
公益社団法人 日本医師会 名誉会長		
社会医療法人 弘恵会 ヨコクラ病院 理事長 横倉 義武 様		
5. 柳川市ワンヘルス推進宣言	・・・	29
－ 柳川市ワンヘルス推進宣言（本文） －	・・・	30
6. 閉会	・・・	31

1. 開会

【司会】 本日はお忙しい中、柳川市ワンヘルス推進大会に御参加いただきありがとうございます。
います。

私は、本日の進行を務めさせていただきます小池と申します。どうぞよろしく願いいたします。

それでは、ただいまより柳川市ワンヘルス推進大会を開催いたします。

初めに、主催者を代表して、柳川市長、金子健次が御挨拶申し上げます。



【金子市長】 会場の皆様、こんにちは。柳川市長の金子健次です。

まだまだ寒い日が続いておりますが、今週末11日から4月3日まで、柳川の春の風物詩、柳川雛祭りさげもんめぐりが開催されます。新型コロナウイルス感染症の影響で3年間縮小開催を余儀なくされましたが、今年はフルメニューで盛大に開催される予定でございます。活気を取り戻し、観光客も柳川市民も笑顔あふれる春が訪れることを期待しているところでもございます。

それでは、柳川市ワンヘルス推進大会に当たりまして、主催者を代表し御挨拶を申し上げます。

本日は御多忙にもかかわらず、御来賓として、福岡県ワンヘルス推進協議会顧問として御尽力いただいております藏内県議、また、近藤柳川市議会議長、また、先ほど御連絡がありました前福岡県議会議長の秋田様、秋田様はドクターでもございます。地元の杵島県議、板橋県議、そして、柳川山門医師会から龍会長に御臨席いただきました。ここに感謝申し上げます。

また、会場には、南筑後保健福祉環境事務所の田嶋所長様、筑後農林事務所の池田所長様、筑後家畜保健衛生所の小森所長様、南筑後県土整備事務所柳川支所の森山所長様はじめ、多くの県職員の方々にも御出席をいただいております。ありがとうございました。もちろん柳川市の行政区長様、そして多くの柳川市民の皆様にも御出席いただきました。本当にありがとうございます。

さて、福岡県では、全国に先駆け一昨年にワンヘルス推進基本条例を制定いたしまして、

ワンヘルスの実践にいち早く取り組まれております。人に感染する病気の約60%は動物から人に感染する感染症だといわれています。新型コロナなどは典型的な事例として、まさに現在進行形の問題でもあります。ひとたびこのような感染症が起きてしまえば、私たちの生活は大きく制限を受け、不自由を余儀なくされたことは身をもって実感しているところでもあります。そこで、本市においても、人の健康、動物の健康、環境の健全性を一体的に守るワンヘルスの理念に賛同し、様々な取組を今後推進していかねばならないと考えております。

また、本日はみやま市から板橋県議にお越しいただいておりますが、県議会の先生方の御尽力により、令和9年度にはみやま市に福岡県のワンヘルスセンターが整備されることとなっております。このことで、県南地域がワンヘルスの先進的な地域になることを期待しているところでもございます。

本日は、福岡県におけるワンヘルスの取組について、福岡県ワンヘルス総合推進室の左藤室長から御説明いただくとともに、基調講演としまして、公益社団法人日本医師会名誉会長であり、ヨコクラ病院理事長の横倉先生から「人と動物の健康を考えるワンヘルス」と題して御講演いただきます。横倉先生、講演を御快諾いただきまして本当にありがとうございます。

最後には、「柳川市ワンヘルス推進宣言」を会場の皆様全員で御確認いただきたいと考えております。

皆様におかれましては、本大会を契機に、ワンヘルスについてまずは理解を深めていただき、これから日々の生活の中で実践いただきますことをお願いして、主催者を代表しての御挨拶とさせていただきます。

本日は最後までどうぞよろしく願いいたします。

2. 来賓紹介・あいさつ

【司会】 続きまして、本日はお忙しい中、多数の御来賓の皆様に御臨席いただいております。ここで、御来賓の皆様を御紹介させていただきます。

福岡県ワンヘルス推進協議会顧問で、福岡県議会議員であります藏内勇夫様でございます。(拍手)

続きまして、柳川市議会議長、近藤末治様でございます。(拍手)

福岡県議会前議長、また、福岡県議会ワンヘルス・地方分権調査特別委員会委員長、そして、医師でもあります秋田章二様でございます。(拍手)

福岡県議会議員、椛島徳博様でございます。(拍手)

福岡県議会議員、板橋聡様でございます。(拍手)

一般社団法人柳川山門医師会会長、龍元昭様でございます。(拍手)

それでは、御来賓を代表しまして、1名の方より御挨拶をいただきます。福岡県ワンヘルス推進協議会顧問、藏内勇夫様、お願いいたします。



【藏内顧問】 皆さん、こんにちは。御紹介をいただきました、福岡県ワンヘルス推進協議会顧問という長い肩書がありますが、筑後市の県会議員の藏内でございます。

なぜ私がこの協議会の顧問かと。会長は横倉先生でございます。医師であります。私は獣医師、動物の医者でございます。

このワンヘルスというのは、横倉日本医師会会長時代、私が日本獣医師会の会長時代に、2人で東京で酒を飲んでいまして、「横倉会長、福岡県のこんな田舎から日本を代表する会長がもう出ることはないですよ」「うん、そうだな」「何か2人でやりましょうか」と、こういう話をいたしましたら、横倉会長も私も、「やるならワンヘルスだね」と。こういうことでこのワンヘルス運動を始めたわけでございます。2013年の6月でございました。

その半年後に、日本医師会と日本獣医師会で、ワンヘルスに関する学術協定を結びました。ここから一気に、世界中にあつという間にこのワンヘルスの輪が広がっていきました。その2年後、2015年、スペインのマドリードで第1回目のワンヘルス世界会議がございまして、私も横倉会長もそこで講演をいたしました。世界中から喝采を受けました。私は筑後弁

でしゃべったんですが、横倉会長は見事な英語で講演をされました。きっとその差があったんだろうと思いますが、世界医師会から、ぜひ2度目は日本でやったらどうかと。同時に、世界獣医師会からもそういうオファーが来ました。横倉会長と2人で、よしやろうと。

そういうことで、2016年秋に北九州市で、第2回世界獣医師会－世界医師会“O n e H e a l t h”に関する国際会議を行いました。大変高い評価を受けまして、その後に、国連、G7、WHO、WWF、FAO、全ての国際機関がこのワンヘルスを推進するということになりました。

遅れて岸田総理も国会での度々の代表質問で、ワンヘルスを福岡県がやっているから、これはやるべきではないかと。そういう代表質問なんですね。ここの松山政司先生だとか大家先生、そして予算委員会では、医師の自見英子先生が取り上げてくれました。見事に、この福岡県選出の3人の連携によりまして、岸田総理もやると。そして今度のG7の広島サミットではワンヘルスを協議すると。こういったことを言っていただけになりました。

ワンヘルスとは何ぞや。私が初めて福岡県議会でワンヘルスの話をしたときに、「藏内会長、犬の健康ですか」「うん。犬の健康も含む」と。これは地球の健康なんだ、地球上の命は一つなんだ、「O n e W o r l d－O n e H e a l t h」、このことをしっかりと念頭に置いて人間はこれから生活をしないと将来がないという考え方なんだと。そういうワンヘルスであります。感染症防止、あるいは健康づくり、私はこのワンヘルスというのは全ての職業を成長させる原動力になると思っております。

このワンヘルス、ちょうど今、COVID-19で我々の生活は大きな影響を受けております。でも、横倉会長とワンヘルスをやろうとといったときにはコロナウイルスじゃなかったんですよ。そろそろ100年前のスペイン風邪が変異をしてくるねと。そうしたら、あのときは5,000万人死んだとか言われますけど、その3倍はいくだろうと。我々、何の抵抗力もない、ウイルスもない、予防体制、備えもない、だから始めようということで始めました。

世の中に自然災害というのがございます。まず地球を取り巻くこの空気の中で発生するやつ、そして、我々が生活している地球上の生態系で発生する災害、もう一つは、地球の中なんですね。まず、地球上でやるやつはどういったものがあるでしょうか。これは台風、豪雨、結果的に温暖化。地球の中は何があると思いますか。地震です。そして津波。我々が生きている生態系で起こる自然災害が、この感染症です。ですから、自然災害は気象災害、地殻災害、そして生物災害、この生物災害が感染症であります。

そういったことでありますから、我々、台風が来ると、ドアを強化したり、いろいろ備えをやりますよね。災害には備えあれば憂いなしといえます。この感染症、自然災害なのに誰も備えをしていません。その警鐘を、私と横倉会長で鳴らしたわけです。あっという間に世界中に広がりました。

今日はこの柳川で宣言をしていただくということを聞きました。私、東京に月何回か行っていますが、東京で「会長、どこ出身ですか」「福岡県の筑後市」と言うと変な顔するんですね。「どこにあるんですか」と。「柳川の隣ですよ」と言うと「ああ、分かります」と。この柳川っていうのはすごい力なんです、知名度を含めて。金子市長、一番新聞に出ています。大きいから、またよく新聞で目立つんです。この間、琴奨菊の断髪式、お世話になりました。いい写真も頂いてありがとうございました。この柳川で宣言をしていただければ、我々、鬼に金棒であります。

既にこの近くでもワンヘルス運動はあっているんですよ。柳川高校は真っ先にワンヘルス教育を取り入れました。そして、筑後市とみやま市にある県営公園、あれはワンヘルスパークなんです。それから、筑後市では民間団体、ボランティアのワン・ヘルス・クリエイツという団体が活動しています。表にワンヘルスカーが停まっています。

そういうときに、この柳川で今日宣言をしていただく。私たちは本当に心強く、これからの柳川のこの活動に期待いたしておるところでございます。ぜひ皆さん方に今日お話を聞きいただいて、地域の方々、柳川市全体にこのワンヘルスを広げていただきたい。

このワンヘルスというのは、農業も漁業も、医師も獣医師も薬剤師も、全てこのワンヘルスの考え方を取り入れて成長できるんです。我々がコロナに負けるというのは、我々がこの大きなパンデミックをもとに成長できるかどうかなんです。昔からウイルスは世の中が動く原動力でありました。それが今、我々は試されている、人間は試されている、そういう状況だと思いますので、ぜひよろしくお願ひ申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

【司会】 藏内様、ありがとうございました。

3. 福岡県におけるワンヘルスの取組について

【司会】 それでは、福岡県保健医療介護部保健医療介護総務課ワンヘルス総合推進室室長、左藤秀樹様に、福岡県におけるワンヘルスの取組について御講演をいただきます。左藤様、よろしくお願いいたします。



【左藤室長】 皆様、こんにちは。御紹介をいただきました福岡県ワンヘルス総合推進室長の左藤と申します。

本日は、柳川市ワンヘルス推進大会の御盛会を心からお喜び申し上げます。そして、このような晴れやかな場に本県の取組を紹介させていただく機会を頂戴いたしました柳川市の金子市長に心から感謝を申し上げます。

また、本日御講演をいただきます日本医師会名誉会長の横倉義武先生、また、御来賓の、昨年アジア獣医師会連合会長に御就任をされました日本獣医師会の藏内勇夫会長をはじめ、県議会の先生方、市議会の先生方、医師会の皆様には、日頃から本県のワンヘルスの推進に深い御理解とお力添えを賜っておりますことに、この場をお借りいたしまして改めて厚く御礼を申し上げます。

それでは、私からは、福岡県におけるワンヘルスの取組というテーマでお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、この3点についてお話をさせていただきます。まず、「ワンヘルスとは」と題しておりますけれども、こちらに入ります前に少しだけ皆様に質問をさせていただければと思っております。

まず1点目でございますけれども、本日のこの大会に参加される前から、「ワンヘルス」という言葉を聞いたことがあったという方がいらっしゃいましたら、よろしければ手を挙げていただければと思います。

ありがとうございます。結構いて、ちょっと安心しました。

OUTLINE
1 ワンヘルスとは
2 ワンヘルスとSDGs
3 福岡県のワンヘルスの取組

それでは、2番目でございますけども、「ワンヘルス」ということはどういうことかを御存じの方がいらっしゃいましたら、また手を挙げていただければと思います。

ありがとうございます。これだと少し減ってくるということがございますので、今日はこの後、私から少しワンヘルスについて説明をさせていただきます。少しワンヘルスについてこういったものかというのをお分かりいただけるかと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、簡単な動画がございますので、それをちょっと御覧いただければと思います。

(動画視聴)

動画にもございましたように、新型コロナも、人と動物の両方に感染をする人獣共通感染症で、野生動物のコウモリが持っていたウイルスが人間に感染し、今日のようなパンデミックを引き起したと言われております。その要因はまだ詳しくは分かっておりませんが、人間が利便性や経済を重視した行動や活動を行っていることに問題の根っこがあるのは間違いないとも言われております。

こうしたパンデミックが起きないようにするためにも、これからは我々人間が動物や自然の環境に配慮した行動をしていこうというのがワンヘルスであります。この点については、この後、横倉先生からも詳しくお話があるかと思っておりますので、次に移らせていただきます。

次は、ワンヘルスとSDGsの関係でございます。

柳川市におかれましては総合計画の後期基本計画で、各施策の方向性にSDGsのゴールを明記されておられます。そしてそれを推進されているところでございますが、こちらは福岡県の行動計画の柱でございます、七つ柱がござ

ワンヘルスとSDGsの関係	
SDGsの17のゴールのうち、14と関係がある。	
ワンヘルス7つの柱	SDGs17の目標
人獣共通感染症対策	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
薬剤耐性菌対策	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
環境保護	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
人と動物の共生社会づくり	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
健康づくり	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
環境と人と動物のより良い関係づくり	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17
ワンヘルス実践の基盤整備	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17

います。こちらにワンヘルスのゴールがどのように関わっているかというのを示したものでございまして、SDGsは全部で17ゴールでございますが、その14に関わっているということで、非常にSDGsとも関連が深いというふうに我々は考えております。

そうした中、SDGsに積極的に取り組んでおられます柳川市から、今回、ワンヘルス推進宣言を行っていただけると伺いまして、大変ありがたく思っております。県といたしましても、今後、柳川市と一緒にワンヘルスの取組を進めていきたいと考えておりますので、金

子市長、どうぞよろしくお願いいたします。

では、具体的に福岡県がどのような取組を行っているかを紹介したいと思います。

(動画視聴)

ここからは動画で御紹介した主な取組につきまして、少し補足をさせていただきたいと思っております。

まず1点目が、ワンヘルスに関する国際会議でございます。

世界トップクラスの研究者がワンヘルスアプローチによる研究成果などを世界に向けて発信する“O n e H e a l t h”国際フォーラムを2020年度から毎年開催しております。今年

取組① 福岡県“One Health”国際フォーラム

人獣共通感染症などの諸課題に対して、各分野の世界トップクラスの研究者がワンヘルスアプローチにより解決することを目指し、研究成果などを世界に向けて発信

- 令和4年11月12日(土)～13日(日)に開催
- 世界医師会会長や世界獣医師会会長等による基調講演に加え、俳優の坂上忍さんによるトークショーを実施



(基調講演の様子) (坂上忍さん、知事、日本獣医師会会長による崩談の様子)

は昨年11月に、アジア獣医師会連合（FAVA）大会と同時開催をしております。ワンヘルスの今後の展望というテーマで御講演いただきました、こちらが世界医師会会長のオサホン・エナブレレ先生、そして、こちらの世界獣医師会長のラファエル・ラガンズ先生からも御講演をいただきまして、政治・行政の取組の重要性が強調されまして、その中で、他に先駆けて条例を制定しワンヘルスを推進しております県議会や県の取組を高く評価いただいたところでございます。

こちらのほうは、その後に県民講座として開催をいたしました、坂上忍さん、藏内会長、それと服部知事の鼎談でございます。実はこちらは先週の金曜日にテレビ西日本、8チャンネルになるかと思っておりますけども、「坂上どうぶつ王国」という番組の中で10分近く取り上げていただいております。見逃し配信とかもあるかと思っておりますので、もしよろしければ御覧いただければと思います。

2番目でございます。「ワンヘルスの森」でございます。

ワンヘルスを実感できる場として、太宰府市、大野城市、宇美町にまたがります県立の四王寺県民の森を「ワンヘルスの森」として整備いたしました、これも昨年の11月にオープンしております。

取組② ワンヘルスの森

ワンヘルスの理念を実感できる場として、県立四王寺県民の森を「ワンヘルスの森 四王寺」として整備

- ワンヘルスの森ミュージアム
木の霽りに包まれた心地よい空間で、森に生息する動物や四季折々の植物のほか、森林浴の効能などについて学ぶことができる
- 解説板の設置
ワンヘルスの説明や森林浴のコースマップ、見どころを紹介(多言語標記)
- ワンヘルスガイドの育成
ワンヘルスの説明や「ワンヘルスの森」を案内できるガイドを育成



ワンヘルスの森案内板 ワンヘルスの森ミュージアム ワンヘルス体験コース(イメージ)

展示学習室というのがございましたけど、そちらを、こちらの真ん中にごございますワンヘルス

ルスの森ミュージアムとしてリニューアルいたしまして、人と動物と森林の関わりなどを解説するパネルなどを設置しております。また、先月からはガイドつきで森林浴などができますワンヘルスツアーというものも開始しております。

次に、「ワンヘルスパーク」でございます。

これも昨年の11月に福岡市の舞鶴公園内に、馬や犬との触れ合いによる健康づくりなども楽しむことができる「ワンヘルスパーク」としてオープンしております。馬術体験ができる馬場でありますとかドッグランを整備しております、週末には非常ににぎわっておるところでございます。

次ですけれども、ワンヘルス宣言事業者登録制度というものをしております。

この制度は、福岡県内の事業者に、事業活動の中でワンヘルスに関する取組を行っていただくということを宣言していただいて登録をするというものでございまして、昨年の8月に募集を

開始しております。例えば、こちらの活動例にございますように、病院や薬局でワンヘルスの普及啓発を行っていただくということでもありますとか、事業所におきまして、電気、ガソリンの使用量の削減などの取組を行っていただくというところで御登録をいただいております。

柳川市内におきましては、柳川漁業協同組合、福岡有明海漁業協同組合連合会をはじめ、建設会社なども含めまして10事業者に御登録をいただいております。また、横倉先生のヨコクラ病院でも御登録をいただいております。

次に、ワンヘルス認証制度でございます。

この制度は、ワンヘルスの理念に沿って生産されます農林水産物を認証するもので、昨年9月に募集を開始しております。認証の要件は、生

取組③ ワンヘルスパーク

舞鶴公園(福岡市)内に、馬や犬とのふれあい(アニマルセラピー)による健康づくりや、ワンヘルスに関する体験型学習教室を楽しむことができる「ワンヘルスパーク」をオープン

- 馬術体験
舞鶴公園の木々やオフィスビルに囲まれた特別な異空間で馬と触れ合う機会を提供
- ふれあいお世話体験
エサやりや観音掃除、ブラッシングなど馬のお世話を通して人と動物の関わり方を考える機会を提供
- ドッグラン
舞鶴公園内におよそ250㎡のドッグランを設置




馬術体験
ドッグラン

取組④ ワンヘルス宣言事業者登録制度

事業者におけるワンヘルスの取組を広げることを目的に、以下の3点を宣言する県内に事業所等を有する法人、団体又は個人事業主を登録する制度

登録要件:

- ① ワンヘルスの理念に賛同
- ② ワンヘルスに関する活動
- ③ 対外的に情報発信するよう努める

活動例:

病院で 人獣共通感染症に関する啓発を行う
 薬局で 薬剤耐性菌に関する啓発を行う
 事業所で 電気、ガソリンの使用量の削減

今年8月の制度開始以来、イオン九州、ANAをはじめ診療所、薬局、動物病院など約270社が登録



FUKUOKA ONE HEALTH

事業者等の名称
登録番号: F3H-000000
ワンヘルス宣言事業者登録証

取組⑤ ワンヘルス認証制度

ワンヘルスの理念に沿って生産される農林水産物等を認証する「福岡県ワンヘルス認証制度」を全国で初めて創設







態系の保全や安全・安心な食の提供、環境負荷の低減などの取組を二つ以上実践していただくこととなります。この認証を受けますと商品に、認証ロゴマークをつけていただくことができます。

有明海漁業協同組合連合会の福岡有明のりも認証されておりまして、この後、御紹介しますF A V A大会のディナーの食材としても提供して、大変好評を得たところがございます。この制度を活用いたしまして、県産農林水産物の地産地消にもつなげていきたいと考えております。

次に、ワンヘルス教育でございます。

ワンヘルスを県民一体となった取組として広げていく上で子供たちに対する教育の役割は大変重要であるため、令和3年度から行っているところがございます。

内容といたしましては、画面の右側でございますリーフレットを一昨年から県内全ての、小学校4年生に、真ん中が中学校1年生に、一番こちらの緑のほうが高校の全生徒と全教職員に配布をしているところがございます。



また、ワンヘルス教育の実例の積み上げを目的といたしましたワンヘルス実践研究といたしまして、柳川高校をはじめ、県立・私立を合わせまして10校におきまして、総合的な探究の時間をはじめ、看護、工業、農業などの専門科目における実践も行っております。

こちらの写真は、昨年10月に九州芸文館で開催いたしましたワンヘルスフェスティバルにおきまして、柳川高校の生徒の皆さんに取組を発表していただいたり、ダンス部の皆様にワンヘルスをテーマとしたダンスを踊っていただいたときの様子でございます。

また、写真はございませんけれども、F A V A大会で研究協力校の生徒によります英語での発表も行われまして、大きな会場で多くの方に向けて発表できたことは自信につながって、これからもワンヘルスを学んでいこうと思ったというような声もいただいたところがございます。

今後は、ワンヘルスアプローチができる人材育成のため、大学におけるワンヘルス教育についても検討を進めていきたいと考えております。

そして、これまでも説明をしておりました、昨年11月11日から13日まで開催されましたアジア獣医師会連合 (FAVA) 大会でございます。今回は、アジアからのワンヘルスアプローチをテーマに開催をされたところでございます。

そして、大会の最終日でございますけれども、人獣共通感染症対策や薬剤耐性対策、また、動物と

人との共生社会構築のための地球環境の保全の推進などが盛り込まれましたアジアワンヘルス福岡宣言2022が採択をされました。福岡の名が盛り込まれました宣言が世界に向けて発信されましたことは大変光栄でございます、意義深いことであると考えております。

このFAVAの本部はタイのバンコクにございますけれども、今後このワンヘルスの実践活動をリードする拠点を日本に設置されるという計画がございましたことから、福岡県と福岡市、そして地元経済界などとともに福岡市への誘致を目指してまいりました。これまで御説明をしてきましたような福岡県の取組をFAVAの皆様

に大変高く評価していただきまして、大会開催直前の昨年11月9日にFAVAの会長に御就任をされました藏内会長と服部知事で、FAVAワンヘルス福岡オフィスの設立に関する覚書を締結したところでございます。この福岡オフィスは2023年度に、福岡市にありますアクロス福岡に設立をされまして、先ほど御説明いたしましたアジアワンヘルス福岡宣言2022に掲げられましたワンヘルスの実践活動をリードするため、アジア各国からワンヘルスに関する情報を収集するとともに、世界動物保健機関、国連食糧農業機関など国際機関と連携をいたしまして、人獣共通感染症対策などに取り組むこととされております。今後、県はこの福岡オフィスと連携をいたしまして、日本のみならず、アジア、そして世界のワンヘルスの推進に貢献をしていきたいと考えております。

アジア獣医師会連合(FAVA)大会

「アジアからのワンヘルスアプローチ」をテーマとしたFAVA大会を契機に、福岡県のワンヘルスの取組を国内外に向けて発信するとともに、県民のワンヘルスの理解を促進

県の取組内容

- ・ 福岡県「One Health」国際フォーラムを同時開催。
- ・ 農林水産まつりを同時開催し、ワンヘルス認証を受けた農林水産物を販売・PR。また、歓迎レセプションでも紹介・提供。
- ・ 県立「四王寺県民の森」を大会関係者が視察。



アジア獣医師会連合(FAVA)大会
ONE HEALTH APPROACH FROM ASIA
F.A.V.A. 2022




ワンヘルスの森 四王寺を視察 FAVA大会「アジアワンヘルス福岡宣言2022」

FAVAワンヘルス福岡オフィスの設立

- アジア及び世界におけるワンヘルス実践活動をリードする拠点となるFAVA日本事務所の福岡市への設置が決定
- 「FAVAワンヘルス福岡オフィス」では、
 - ワンヘルスに関するアジア・オセアニア各国の活動情報の収集と共有
 - FAVAや各国獣医師会の大会等におけるプログラムの企画協力などの活動が行われ、国連ハビタット福岡本部と連携した取組も検討されている



アジア獣医師会連合(FAVA)日本事務所設立に関する覚書の締結式



FAVAワンヘルス福岡オフィスが設立される「アクロス福岡」
← 築印式の様子

最後に、県内の市町村の動き、広がりでございます。

令和3年度以降、本日の柳川市を入れまして12の市町において、市町長によりワンヘルス推進宣言というものがなされております。県内全体で60ございますので、これから広げたいと考えております。

福岡県内市町村への広がり				
令和3年度以降、県内の市町村において、ワンヘルスの取組が拡大				
市町村長がワンヘルス推進宣言を表明				
宣言内容(抜粋)				
<ul style="list-style-type: none"> 県行動計画に連携協力するとともに、ワンヘルス実践施策を積極的に推進する。 住民へのワンヘルス周知に努め、理解の促進を図り、その実践活動に対し必要な支援を行う。等 				
市町村				
・みやま市	・直方市	・北九州市	・太宰府市	・宇美町
・宮若市	・大野城市	・筑後市	・大川市	・大牟田市
・嘉麻市	・柳川市			



ワンヘルス推進を宣言する市長 大川市長(R4.10.21)



ワンヘルス推進を宣言する町長 大牟田市長と小学生の皆さん(R5.1.31)

最後でございますが、ワンヘルス、具体的にどういったことをしておけばいいのかとよくおっしゃられますので、最後にちょっと3点だけ御紹介をしたいと思います。




一つ目でございますが、自家用車の使用できるだけ控えて、バスや電車の利用とか自転車を利用するということです。そうすることによりまして、二酸化炭素の排出が抑えられるということで、地球温暖化対策等にもつながっていくという取組になります。

二つ目でございますけれども、飼っておられる愛玩動物の適正飼養の心がけというところでございます。例えば予防接種でありますとか健康診断、また、衛生管理に気を配るということでペットの健康維持をして、人と動物の間での感染症の発生を防ぐということにもつながっていきます。

また、三つ目でございますけれども、私たちが病気になったときにお医者さんから抗生物質を処方されることがあるかと思いますが、その抗生物質については、処方されたとおりに最後まで飲み切っていただきたいと思っております。途中でやめてしまいますと、抗生物質の効かない薬剤耐性菌というものが体の中でできてしまうということにつながっていきます。この薬剤耐性菌の一部は、動物と人と両方感染するという事例もありますので、そういった意味でも、薬については最後まで飲み切ることを心がけていただければと思います。

このほかにも日常生活の中でワンヘルスについてどんなことができるかということは県のホームページに詳しく載せておりますので、そちらのほうも御覧いただければと思っております。

最後でございますが、本日資料としてこちらのワンヘルスのリーフレットをお配りしております。今日お話しさせていただいた内容とかも書いてございます。後ほど詳しく御覧いただければと思っております。それと、下のほうにイン

ワンヘルスの具体的な行動例		
【行動例①】 公共交通機関の利用 自転車、徒歩での通勤通学	【行動例②】 愛玩動物の適正飼養	【行動例③】 薬剤の適正使用
↓	↓	↓
環境保護	人獣共通感染症対策	薬剤耐性菌対策
 <p>バス 電車 タクシー 自転車</p>		

スタグラムなどのQRコードとかもつけております。もしよろしければアクセスをしていただければと思っております。

発表は以上でございます。御清聴ありがとうございました。(拍手)

【司会】 左藤様、ありがとうございました。福岡県の取組について分かりやすく御説明いただきました。皆様、左藤様にいま一度大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

4. 基調講演「人と動物の健康を考えるワンヘルス」

【司会】 それではこれより、次第4、基調講演に移ります。

本日、基調講演をいただきますのは、公益財団法人日本医師会の名誉会長で、ヨコクラ病院理事長の横倉義武先生でございます。先生のプロフィールにつきましては、お配りしております資料の中に掲載しておりますので御覧ください。

本日は、「人と動物の健康を考えるワンヘルス」と題し御講演いただきます。それでは、横倉先生、よろしくお願いいたします。



【横倉先生】 皆さん、こんにちは。ただいま御紹介をいただきました、隣町のみやま市高田町の横倉でございます。

今日は、この柳川でのワンヘルス推進大会にお招きいただきまして、金子市長さんに心から感謝申し上げます。また、今日は柳川医師会の龍会長もお見えでございます。少し、「人と動物の健康を考えるワンヘルス」ということ

でお話をさせていただきます。

今日の話は大きくこの六つについてであります。今、左藤室長から、6番の福岡県のワンヘルスの取組については詳しいお話がございましたので、前半の部分を少しお話をさせていただきます。

まず、はじめにであります。ちょうど我々、コロナでこの3年間大変御苦労されましたが、このコロナのときに「いのち」を考えるということで、一つのスライドがございます。

人間とウイルスはどちらが先にできたかということですが、ウイルスは、実は約30億年前にこの地球上に出現したと言われております。人類というのは、今いろいろな調査が行われて、やはり猿から徐々に進化をしていくわけでありませ

今日のお話

1. いのちを考える。
2. 新型コロナ感染症
3. 歴史を変えた感染症
4. 国境を越える感染症
5. ワンヘルス活動の動き
6. 福岡県のワンヘルスの取組

コロナ禍に「いのち」を考える

ウイルス（最も古い生命体）



対立か共存か？

人類（最も新しい生命体）

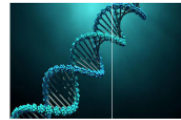


が、数百万年前にアフリカ大陸で誕生して、ホモサピエンスというのが全世界に徐々に広がっていったということでもあります。この対立するか、共存するかということでもあります、ウイルスというのは、人類の発達に物すごい大きな効果があったようでもあります。

さて、「いのち」の定義でありますけども、命というのは細胞からできているわけでありまして、細胞の集合体でもあるわけでありまして、そして、一つ一つの細胞、遺伝情報というものの、DNAを持っていて、それで、それぞれの形質が変わって作られているわけでありまして、環境からの刺激にも応答するし、何よりもウイルスはエネルギー物質を合成して、そのエネルギーを使って生活・成長するというようなことでもあります。

「いのち」とは (いのちの定義)

1. 細胞から出来ている
 2. 遺伝情報DNAを持っている
 3. 環境からの刺激に応答する
 4. エネルギー物質 (ATP)を合成し、そのエネルギーを使って生活・成長する
- ウイルスは上記の定義から外れるので生物でない



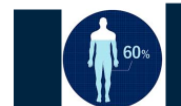
このウイルスというのは、命であるかということ、生物であるかということがよく議論されているんですが、こういう従来の定義から考えると、ウイルスというのは生物とは言えないのではないかなということが言われるところでございます。実はこのウイルスというのは、細胞膜も持っておりませんし、また、自分で増殖することができない、他の細胞に入り込むことによって増殖するということでもありますので、生き物とは言えないのではないかなという説もあるところであります。

さて、地球であります、地球の大気組成は、生物があふれているため非常に安定をしているわけでありまして。また、大気組成も安定しているため生物が生きることができると。大気の組成は、主な成分として比率が高い順番に、窒素が80%弱で、酸素が20%、そのほか二酸化炭素というのが0.3%ぐらいで大気が構成されているわけでありまして。

「いのち」 溢れる地球

地球の大気組成は、「生物」(植物:酸素、動物:二酸化炭素)が溢れているため安定している。また、大気組成安定しているため「生物」が生きることができる

人類80億人の体内水分(約2億8千万t:日向神ダム10杯分)は、絶えず体外環境水と循環している



そしてまた、水というものが地球にはあるわけです。今、宇宙の中には数億個のいろいろな星があるわけですが、この水が存在するかどうか、その星に生物が生きているかどうかの一つの証であると。火星に生物がいるのではないかなということも、水の存在が証明されたから、最近、そういう話が出てきたようでもあります。

水というのは全ての生命体にとって不可欠な物質でありまして、体を構成する物質の最も多くを占めているわけでありまして。細胞内の物質を代謝する際の媒体としても利用されているわけでありまして、通常、生物の70%から80%は水でできている。人間も約60%強が水でできているわけでありまして、人類80億人の体内水分——日向神ダムの10杯分ぐらいあるんですが、絶えず体外の環境水と循環をしているということでありまして。すなわち、地球環境と生物は一体として考える必要があるということでありまして。

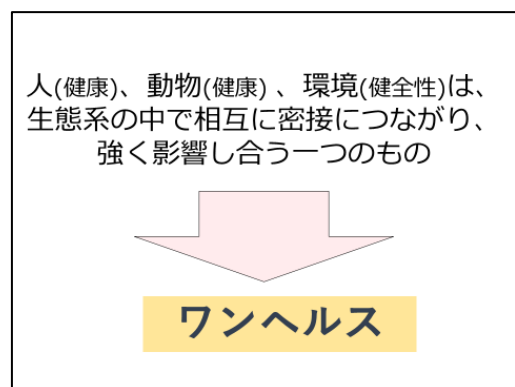
また、地球の空気のある層、だんだん空気が薄くなっていくわけでありまして、こういう大気圏で地球は囲まれているわけでありまして。一つの膜の中にあるとも言えるかもしれない。その中に人間もいれば、いろいろな動物もいる、植物もいるということで、共存して暮らしているわけでありまして。

陸上生物圏というのは、酸素が十分にあるエリアであるわけでありまして。

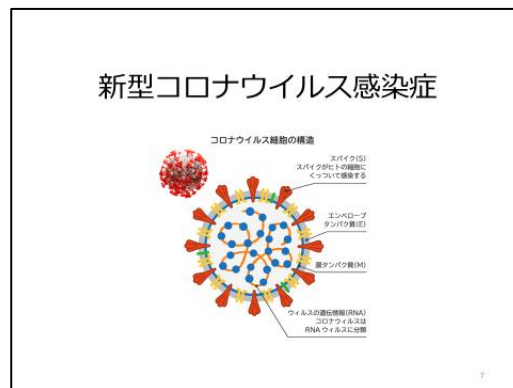
地球の大気とは地球の表面を層状に覆っている気体のことを言いますが、この前、中国の気球が1万何千メートルのところを飛んでいってということがございましたが、大体この空気がある部分は10キロぐらい、だから1万メートルからだんだん薄くなっていき、高度100キロメートルのところをカーマン・ラインと言われ、ちょうどこちら辺ですね。これ以上のところを宇宙空間という呼び方をしているということでありまして。



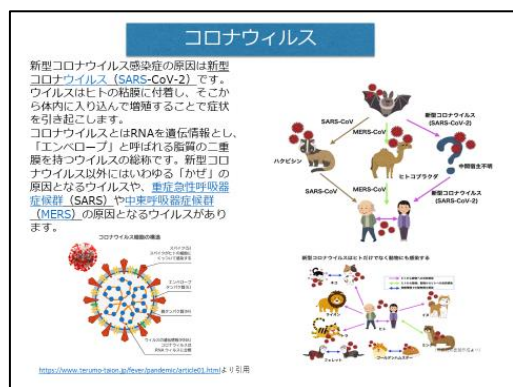
このように、一つの地球の中に様々な動物や人間がいるわけでありましてから、人の健康、動物の健康、環境の健全性は、生態系の中で相互に密接につながり、強く影響し合う一つのものである、すなわちワンヘルスであるということが言われるわけでありまして。



さて、私どもは、この3年間、新型コロナウイルス感染症で大変苦勞いたしました。これは新型コロナウイルスの細胞の模式図であります。ウイルスの表面にこういう突起がある。いわゆる太陽のコロナのような形状をしているということでコロナウイルスという名前がつけられたわけでありまして、そしてまた、突起が様々に変容するというので、アルファ株やデルタ株、オミクロン株という名称をつけられているわけでありまして、ウイルスの遺伝情報というのはウイルスの中にあり、それをたんぱく質のエンベロープが取り囲んでいるということでありまして。



このコロナウイルスでありますけれども、このSARS-CoV-2という名前と呼ばれております。これはさっきの絵と同じですが、ここにあります。どうもこのウイルスは、コウモリから出ていると。実は、コロナウイルスはコウモリがもともと持ったウイルスだろうと言われておりまして、今から十数年前、SARSという肺炎を



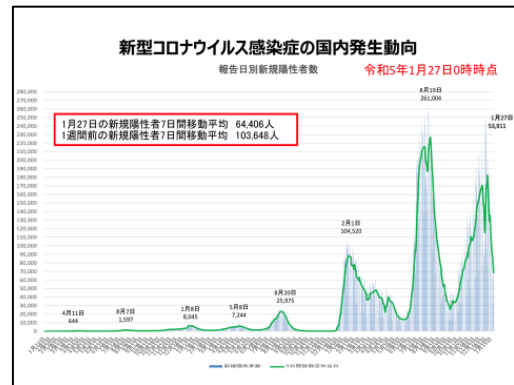
起こすコロナウイルスがありました。日本には幸いにしてこのSARSはあまり入ってこなかったんですが、香港や中国、台湾では非常にこのSARSが流行いたしました。おおよそ数千人の死亡者で収まりました。その二、三年後に、今度は中東で同じようなコロナウイルスによる肺炎が出てきた。これをMERSと呼んでおりましたが、この中間媒体になったのはヒトコブラクダでありました。

実は私、2016年でしたか、たまたま南アフリカで会議がありまして、アラブ首長国連邦を経由して行ったんですが、砂漠のラクダに乗れるツアーがありまして、ラクダに乗ったことがなかったのでラクダに乗りたいたいと思って、それに応募できるかと聞いたところ、ちょうどこのMERSの流行の後でありましたので、人にうつるといけないからということでツアーは中止になっておりました。そういうのが原因で人にうつっていくと。

今回の新型コロナ(COVID-19)は、中間宿主はまだはっきり分らないんですが、ハクビシンではないかと言われておりますけれども、人にうつってコロナのパンデミックを起こしたと。人同士の感染はもちろんであります。人から動物にもうつります。また、

猫同士でもうつるし、犬同士もうつる。猫から人にうつった報告が、去年の終わり頃、新たにありました。また、ハムスターやミンクにもそれぞれ感染するという事で、デンマークでしたかね、ミンクを大量処分せざるを得なかったということがあります。こういうふうに人と動物を行ったり来たりするウイルスであったということで、大変な感染が起きました。

これは、日本の今年の1月27日までの発生カーブであります。3年前の1月16日でしたか、日本で初めての感染者が出て、第1波というのは今から考えれば非常に少ない数でありました。第2波、第3波、第4波、第5波、第6波、7波、8波とずっと感染を繰り返しながら来ているところでもあります。日本では、総数としては昨日までに3,278万人余りの方が感染をしていらっしゃいます。福岡県でも、昨日までに約155万6,500人の方が感染していると。最近、私どもが経験したことないパンデミックが起きたわけでありまして。



実は、先ほど藏内会長のほうからお話がありましたけど、100年前にスペイン風邪というものがはやりまして、スペイン風邪のときには大変多くの方が亡くなりました。スペイン風邪も約3年弱流行したのでありますが、日本の国民の半分ぐらいが感染したのではないかとされているわけでありまして。

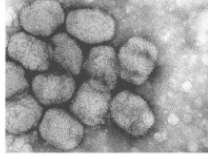
今回のコロナ感染症でも、医療体制が不十分だったという批判を私ども大変お聞きしました。何とかしないといけないということで、それぞれに発熱外来をつくり、また、入院の対応を行ったわけでありまして、実は感染した方に対してどれだけ入院をきちんと対応できたかということを見てもみると、いろいろな先進国がここ

感染者数に対する入院者数の国際比較（人口100万人対）						
○ アルファ株、デルタ株が流行した期間に限り、新型コロナウイルス感染者数に対する入院者数の比を各国の感染者数のピーク時点で機械的に算出した数値を比較したところ、日本はいずれの期間も最も高かった。（注）加盟国以外の国は感染者数の報告がないため、比較対象としていない。						
国	時期	感染者数(10万人あたり)	入院者数(10万人あたり)	入院率	入院率(%)	入院率(%)
日本	2021/1/19	698	117	0.167	24.1	7.4
アメリカ	2021/1/13	10,119	380	0.038	3.7	128.4
イギリス	2021/1/11	11,569	539	0.047	4.1	139.3
フランス	2021/4/4	9,010	435	0.054	4.9	64.9
イタリア	2021/3/22	5,293	523	0.099	18.9	86.6
カナダ	2021/4/19	3,235	109	0.034	10.5	21.6
国	時期	感染者数(10万人あたり)	入院者数(10万人あたり)	入院率	入院率(%)	入院率(%)
日本	2021/8/29	2,484	193	0.078	19.3	4.3
アメリカ	2021/9/5	6,785	286	0.042	6.2	61.2
イギリス	2021/10/27	9,165	133	0.015	1.6	28.8
フランス	2021/8/16	4,863	151	0.031	3.1	12.8
イタリア	2021/8/31	1,497	79	0.053	5.3	11.8
カナダ	2021/9/20	1,716	56	0.033	3.3	9.9

にあります。その中でも日本は割とうまく対応できていたとも言われるようでありまして。しっかりと感染した人を入院させて診ることができた、そしてまた、お亡くなりになった方は非常に少なかったということがこれで分かるわけでありまして。

天然痘というのは、最近、日本では全く見ることがありません。しかしながら、今から150年ぐらい前までは、この天然痘で日本も大変苦労しました。伝染性が非常に強い。そして、顔に醜い癩痕が残るということで、江戸時代は非常に忌み嫌われたと。しかしながら、天然痘ワクチンの接種で発生数が減少して、1956年以降、国内での発生は見られていないということでもあります。

天然痘



天然痘は紀元前より、伝染力が非常に強く死に至る疫病として人々から恐れられていた。また、治癒した場合でも顔面に醜い癩痕が残るため、江戸時代には「美目定め病」と言われ、忌み嫌われていたとの記録がある。天然痘ワクチンの接種、すなわち種痘の普及によりその発生数は減少し、WHOは1980年5月天然痘の世界根絶宣言を行った。我が国では明治年間に、2~7万人程度の患者数の流行（死者数5,000~2万人）が6回発生している。第二次大戦後の1946（昭和21）年には18,000人程の患者数の流行がみられ、約3,000人が死亡しているが、緊急接種などが行われて沈静化し、1956（昭和31）年以降には国内での発生はみられていない。

私どもが子供の頃は肩に種痘をしておりましたので、その種痘の跡が残っていることがありますが、日本でも大変な猛威を振るった時代があります。実は、奈良時代、735年に太宰府で流行しました。太宰府はその当時は今でいう中国や朝鮮半島からいろいろな外国から来る方がいらっしやって、太宰府から天然痘が流行して、その当時100万から150万人が亡くなったということがございました。

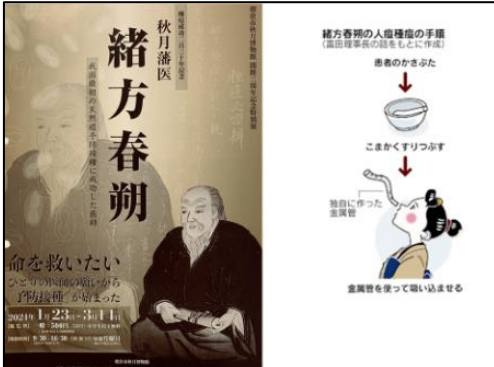
そういうことがあって、聖武天皇が動植物が共に栄えんことを欲すという詔を述べられて、人間だけではなく動物や植物も共に栄えることを願ひまして大仏さんを造ろうと。それも、日本中で生産された銅で造るんだということを言われて造られたと言われていています。そういう思いをされたのは、実はその前に天然痘の流行があったから、それを収めるためにも必要であったということです。日本中の銅をもって造られたというのは、田川に採銅所という地名がありますけど、あそこの銅もこのときに奈良に送られて大仏に使われたということで、そういう名前がついたと私はお聞きしているところがございます。

東大寺の大仏



735年 太宰府から天然痘流行 100~150万人死亡
 738年 1月流行が治まる
 745年 聖武天皇 発願
 752年 開眼供養

この種痘でありますけれども、これに福岡県の方が非常に大きく関わりを持っております。緒方春朔さんという江戸時代末期の医者であります。有馬藩の藩医の方でありましたが、秋月藩のお医者さんのところに行かれて、この天然痘を何とか感染しないようにできないかというこ



緒方春朔の人間種痘の手続
 種痘のわざふた
 ↓
 こまかくすりつぶす
 ↓
 傷口に穿った
 器具
 ↓
 器具を使って傷口に塗る

とで、人の痘瘡のかさぶたを細かくすり潰して植えることで、天然痘の予防に寄与したと。いわゆる今でいうワクチンの始めであります。

そういうことを福岡県の方が始められたと。今、我々が種痘をするときは、ジェンナの話をよく聞きますね。種痘はイギリスのジェンナという医師が開発したんだと言われますが、牛にも同じような痘瘡ができるんですが、このジェンナは、牛の乳房にある痘瘡を培養して使うということで始めました。牛の痘苗ということになっておったんですが、よくよく後で調べると、どうも馬の痘苗が牛の乳房についてということでありました。



1749～1823年
エドワード ジェンナ(英国)

1796年牛痘（種痘法）に成功

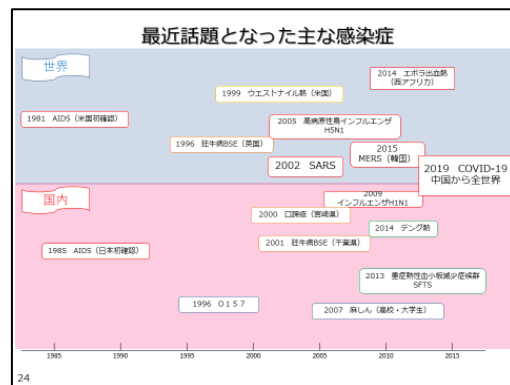
この年代を見ていただくと、1796年にこの種痘法に成功した。これは医学史上有名な話であります。緒方春朔先生は、実にその三、四年前にこのことをされていたということでありまして、種痘を世界で一番初めにされたのはこの方ではないかということ甘木のほうのお医者さん方は一生懸命言われているところであります。

現在はもう天然痘は見ることはありません。私は見たことはありませんけれども、しかしながら、それに似た痘瘡が実は昨年、世界ではやりました。サル痘というものです。これは人畜共通感染症であると言われていています。アフリカ生息のサルやウサギやプレーリードッグなどにうつるということで、これらの動物と接触して人のサル痘が起きてくるということでありまして、これは天然痘ほど重症化しないようですが、結構厳しい症状があるということでありまして、天然痘ウイルスに比べると重症度や死亡率が低く、そしてまた、ワクチンで85%は感染防止できるということでありまして。

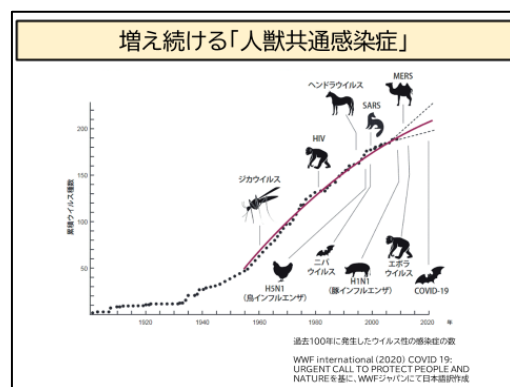
これは世界中の発生数の分類であります、ヨーロッパ、アメリカで非常にはやった。初めはアフリカがスタートだと思えますけれども、



これは1885年以降、社会的なニュースとなった感染症であります。世界的に見ると、1981年、エイズがアメリカで初確認され、日本でも1985年にエイズの患者さんが見られました。そして狂牛病がありましたし、鳥インフルエンザ、エボラ出血熱、先ほどお話ししたSARSやMERSもありました。日本でも、動物の口蹄疫、その前にO-157がありまして、O-157という腸に感染するものがございました。また、千葉県で狂牛病のBSEが発見されたり、そして、2014年にはデング熱が日本に入ってきて、東京辺りは大変数が増えていました。また、重症熱性血小板減少症候群、これは西日本で発生することが多いんですね。ということで、最近は今度のコロナが中国から全世界に広がっていったということでもあります。

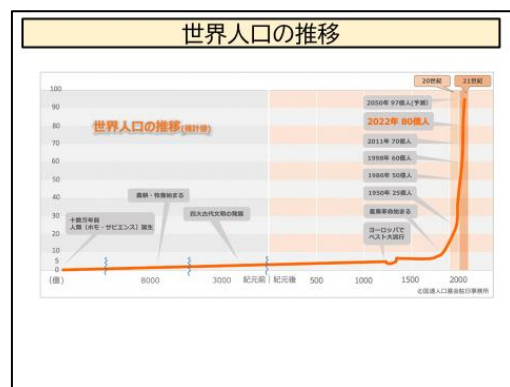


これは過去100年間に発生したウイルス性の感染症の数をプロットしたものでありますが、非常に多くの人獣共通感染症が出ています。人に感染する感染症は、現在確認されているだけで1,400種類以上あり、その6割が人と動物の共通感染症と言われているわけでありまして、急激に今、増えている状態にあります。



こうした感染症の発生は、先ほどもお話がありました、大規模な森林の破壊や地球温暖化、また、土地利用の変化、気候変動等によって、もともと野生動物が持っていた病原体が何らかの形で人にも感染するようになったということでもあります。

それともう一つは、人口の急増ですね。この100年の間に急激に人口が増えているということです。先ほどのペストの時は人口が減ったりしておりましたが、こういうような事態。世界の人口は、この数十年で一気に急増しています。そして、医療の進歩もあり、高齢化も進んでいるということで、戦前までは人生50年と言っておりました。それが今、もう人生100年時代。多分、ここにおられる方は、平均余命から考



えると100歳まで生きられる方が半分以上いらっしゃると思うんですね。そういう時代になってきたということでもあります。

これだけ人口が増えるということは、増えた人々の食料を確保していかなければいけない。そうすると、徐々に自然を農地に転換をしていかなければいけないということで、だんだんと、今までは密林の奥に潜んでいたウイルスが表に出てくることがあるということでもあります。

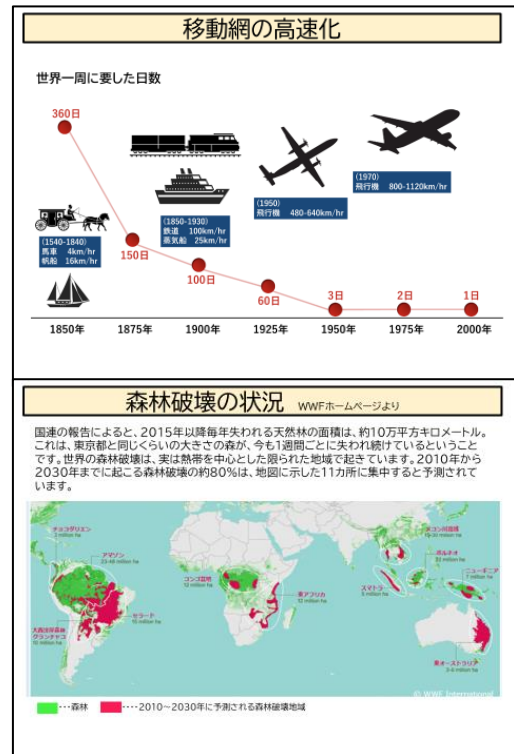
それと同時に、移動網の高速化。1900年あたりは、世界一周するのに100日かかっていたのが、飛行機の発達により、現在は1日で世界一周をすることができるぐらいになっているということですね。

先ほどありました1918年、1920年頃のスペイン風邪、インフルエンザですが、このスペイン風邪は、当時の世界人口12億人のうち実に半分が感染をしたと言われるところであります。今回の新型コロナが本当にあつという間に世界中に広がっていったのも、こういう移動網の高速化というのが一つあるでしょうし、また、森林破壊、人口が増えることによって農地に

変えていかなければいけないということで、至るところで森林が農地に変えられていると。これはアマゾンの森林ですね。アフリカも同様であります。こういうことが温暖化にもつながり、また、感染症の増加にもつながってくるということでもあります。

食べ物を増やさないといけないということで、ブッシュミート、野生動物の肉ですね、野生動物の肉を食べることがよく言われています。これはコウモリ、サル、これもサルでしょうかね。日本でも今、ジビエ料理というのは結構人気なんです。猪の肉や鹿の肉、そういうものを食べることもあるわけですが、

先ほどのサル痘やエボラ出血熱というのは大体アフリカが起源であります。アフリカでは、



食料にするブッシュミート、野生動物の肉から人へという新たな感染も起き得るということでもあります。こういうことのためにも、環境の保全ということが非常に重要であろうということ。そういうことで、このワンヘルス活動というのが非常に重要になってきたということでもあります。

先ほどもお話がありました、人の健康、動物の健康と環境の健全性をしっかりと守っていくことで、次なるパンデミックへの備えになるんですよということでもあります。

こういうことに対して、私も医師会と獣医師会はどういう活動をしたか。実は世界医師会のバンコク総会で、世界医師会と世界獣医師会で覚書を締結しました。その後、先ほど藏内先生のお話がありましたように、2013年に日本医師会、日本獣医師会の学術協定を結んだと。世界医師会の理事会を東京で開きましたので、この学術協定を結んで、そして、47都道府県の医師会と獣医師会が協定を結ぼうということで、これは藏内先生の大変な努力で全国に広げていただいています。そして、2015年にマドリードの“O n e H e a l t h”に関する国際会議で、二人でお話をさせていただいたということでもあります。

そして、国民の間で多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や食品の安全性確保に関する意識が高まっていると。医師と獣医師が緊密に連携して、安全で安心な社会を構築することが求められているということで、2013年11月にこの4項目の協定を結ばせていただいて、このワンヘルスの活動が非常に進んでいったということでもあります。それを受けて、北九

ワンヘルス(One Health)=次なるパンデミックへの備え

人の健康
動物の健康
環境の健全性

- ・ **世界医師会(WMA)バンコク総会 (2012年10月)**
 - ・ **WMA と世界獣医学協会間における覚書**
「国際保健」向上のため、医学と獣医学(医師と獣医師)が協力して取り組むという概念である「ひとつの健康(One-Health)」を目指す。協力範囲は、医学部と獣医学部の合同教育機会の支援、動物由来感染症予防のため、異種間疾病のモニタリングと抑制の取り組みの支援等。
- ・ **世界医師会東京理事会 (2014年4月) 報告**
 - ・ WVAは陸連部体及び各国医師会と共に“O n e H e a l t h”の地域会議を開催。WMAはこの活動を2015年5月に国際規模で推進することを予定。日本医師会と日本獣医師会の間で学術協力の推進に関する協定を締結し、47都道府県医師会に地域の獣医師会との協力を奨励している
- ・ **WVA・WMA共催「“O n e H e a l t h”に関する国際会議 (2015年5月マドリード)**
 - ・ 会議テーマ「“O n e H e a l t h”に向けての牽引者たち」
 - ・ **自然災害のマネジメント-備えと医師・獣医師の連携**
 - ・ 横倉 義武 日本医師会長
 - ・ **日本における2011年大地震と福島原発事故-経験及び復興に向けての医師と獣医師の連携**
 - ・ 藏内 勇夫 日本獣医師会長
 - ・ **「東日本大震災からの復興、獣医師の役割と見通し」**

**日本医師会、日本獣医師会
学術協力の推進に関する協定を締結**

国民の間では、多くの人と動物の共通感染症の流行制御への関心や食品の安全性確保に関する意識が高まり、医師と獣医師が緊密に連携し、安全で安心な社会を構築することが求められている。

協定書の基本事項には、

1. 医療及び獣医療の発展に関する学術情報を共有し、連携・協働する
2. 両者が必要とする学術情報を可能な限り相互に提供する
3. 両者による課題別及び体系的活動の推進を図る
4. 全国レベル並びに地域レベルにおける医師及び獣医師の交流を促進するが掲げられている。

(2013年11月20日)

「福岡宣言」

“O n e H e a l t h”の概念を検証し認識する段階から“O n e H e a l t h”の実践に向け、医師と獣医師が協力して取り組む4項目

1. 人と動物の共通感染症予防のための情報交換と研究体制の整備
2. 人と動物の医療において重要な抗生薬の責任ある使用
3. “O n e H e a l t h”の理念の理解と実践を含む医学・獣医学教育の改善
4. 安全で安心な社会の構築に係る全ての課題解決のための協力



州市で第2回目の世界会議をいたしたわけであり
ますが、そのときに「福岡宣言」というものを出し
ました。ここに藏内先生、日本獣医師会の会長、彼
が世界獣医師会の会長で、台湾の方でしたかね、こ
れが世界医師会の元の会長、フランスのデューとい
う人で、私と4人でこの宣言書に署名をしたと。

先ほどもありましたが、この共通感染症と同時に、
耐性菌の発生を生む抗菌薬、抗生物質の責任ある使用をきちんとやろうということ、ワンヘル
スの理念の理解と実践を含む医学・獣医学教育の改善をしようということ、そして、健全
で安心な社会の構築に係る全ての課題解決のための協力をしていこうというお話を
して、福岡のワンヘルスの取組につながっていったわけであります。

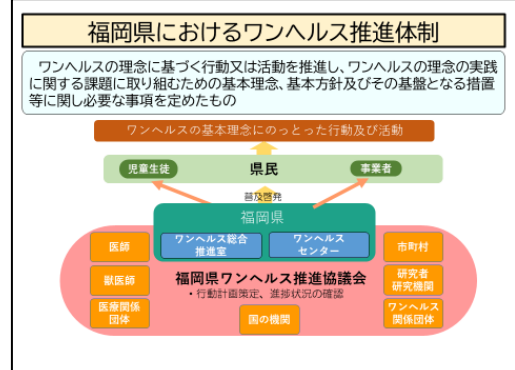
福岡県のワンヘルスの取組については、先ほ
どの左藤室長のお話にも詳しくございました
し、何よりも服部知事がビデオで詳しくお話を
されていまして。この6項目ですね、人獣共通感
染症対策、環境保護、健康づくり、薬剤耐性菌対
策、人と動物の共生社会づくり、環境と人と動物
のより良い関係づくり、この6項目にしっかりと
取り組んでいこうということで今スタートし
ているところでございます。

そして、この推進体制としては、福岡県で総合
推進室をつくっていただき、また、ワンヘルスセ
ンターができて、医療関係、獣医師の先生方、そ
して行政の皆さん方でしっかりと県民の皆さん
に御理解をいただいて、このワンヘルスの基本
理念にのっとった行動及び活動を進めていきま
しょうということで、今、力がどんどん進行して
いっているということでありますし、ワンヘル
スセンターができて、保健環境研究所と動物保
健衛生所、家畜保健衛生所が連携をしながら、よ

ワンヘルス関連条例と行動計画

〈福岡県ワンヘルス推進基本条例〉
ワンヘルスの理念に基づく行動又は活動を推進し、ワンヘルスの理念の実践に関する課題に取り
組むための基本理念、基本方針及びその基盤となる措置等に関する事項を定めたもの
〈ワンヘルスの実践促進に関する条例〉
「ワンヘルス」の取組の実効性を確保するため、県や市町村、事業者、県民が担うべき責務など
を定めたもの
〈福岡県ワンヘルス推進行動計画〉
基本条例の6つの基本方針を具体化する県の施策又は取組を体系的に整理

ワンヘルス実践の基本方針(6つの課題への取組)		行動計画の方向性
人獣共通感染症対策 医療、獣医療をはじめ各分 野と連携し、発生予防、まん 延防止を図る	薬剤耐性菌対策 薬剤の適正使用を推進する	ワンヘルスに関する課題を解決するため、「6つの基本 方針」にワンヘルスの理念の普及啓発や中核拠点の整 備等を推進するための「ワンヘルスの実践の基盤整 備」を加えた「7つの柱」を設定
環境保護 自然環境の保全を図る	人と動物の共生社会づくり 動物愛護の推進と野生動物 の理解と共存を図る	柱ごとに取組事 項を設定し、様々 な施策を展開
健康づくり 自然や動物とのふれあいを 通じた健康づくり	環境と人と動物のより良 い関係づくり 健全な畜産下における安全 な農水産物の生産・消費、 食育を推進する	



い研究や調査を進めていくことができるのではないかとのことです。

そういう中で、今、国立感染症研究所とも共同研究をするということでスタートしています。マダニの媒介感染症で、重症熱性血小板減少症候群というダニが媒介をして起こす病気がありますが、実は、これは西日本で多いわけですが、全国で740例ぐらいの報告があります。福岡県でも平成から現在までに26例の報告があって、こういうものへの治療を開発しているということでございます。

ということで、ワンヘルスというのがしっかりと定着していくこと。きれいな有明海もよりきれいになっていくと。私のまちに濃施山公園があるんですが、これは濃施山公園から撮った去年の夕日でございます。何とかこの環境をしっかりと守っていきたいと思いますので、どうぞ柳川の皆さんと一緒に活動をしていただければと思います。

どうもありがとうございました。(拍手)

【司会】 横倉先生、ありがとうございました。

それでは、ここで、先生の御礼の意味を込めまして花束の贈呈を行います。

(花束贈呈)

【司会】 皆様、いま一度大きな拍手をお願いいたします。(拍手)

取組② 国立感染症研究所との共同研究

保健環境研究所と国立感染症研究所が人獣共通感染症にかかる共同研究(マダニ媒介感染症の検査法の開発等)を開始

取組1 動物由来感染症起因病原体の 網羅的探索	取組2 野生生物生体状況把握手法開発	取組3 普及啓発及び医師会、獣医学会と の地域ネットワーク構築
--------------------------------------	------------------------------	--

福岡県 関係機関

- マダニ媒介感染症検査法を開発し、人と動物の検疫体制を構築。
- 野生動物のマダニ媒介感染症リスクを構築。
- 野生動物に生息するマダニの生体状況を把握。
- 動物由来感染症の発生動向の科学的な調査に活用。
- 企業等と連携した調査を行い、県内のワンヘルスの実現を促進。
- 自治体と連携し関係機関が連携した地域ネットワークを構築。

5. 柳川市ワンヘルス推進宣言

【司会】 それでは、続いて、柳川市ワンヘルス推進宣言に移ります。

御来賓の皆様、横倉先生、左藤室長、主催者の皆様は、ステージ上へ御移動をお願いいたします。

本日は、本大会に柳川市のマスコットキャラクターであります「こっぽりー」とワンヘルスキャラクターの「ワンヘルスぼうや」も参加いただいています。

それでは、次第5、柳川市ワンヘルス推進宣言に移ります。

宣言は、柳川市長、金子健次が行いますので、会場の皆様はプログラムの裏面に記載しております宣言を御覧ください。

【金子市長】 柳川市ワンヘルス推進宣言。





柳川市ワンヘルス推進宣言

本市は広大な農地と縦横に巡る掘割、矢部川、筑後川、有明海など水と緑あふれる自然環境を有し、そこに生息する多様な動植物と人が共生してきた豊かな土地柄です。

その一方で、便利で快適になった私たちの生活が自然環境に多大な負荷をかけ、生態系の変化、人と動物の関係性の変化などをもたらす恐れがあることも認識しなければなりません。

新型コロナウイルス感染症をはじめとする、動物と人に共通する感染症が発生してしまうと、私たちの生活や共生社会が脅かされるといった問題となります。

そこで本市では、人と動物の健康及び環境の健全性を一つのものとする「ワンヘルス」の理念がこうした問題を予防・解決していく鍵と考え、次の事項に取り組み、「ワンヘルス」の実践を推進することをここに宣言します。

- 一．福岡県ワンヘルス推進行動計画に基づき、福岡県の取り組みに連携・協力し、ワンヘルス実践施策を積極的に推進します。
- 一．市民へのワンヘルスの周知に努め、理解の促進を図り、その実践活動に対し必要な支援を行います。
- 一．関係機関と連携し、オール柳川でワンヘルスの取り組みを進めます。

令和5年2月7日

柳川市長 金子健次

以上、ここに柳川市ワンヘルス推進宣言を声高々に宣言いたします。

ありがとうございました。

【司会】 今後、柳川市では、この宣言に基づき、ワンヘルスの実践に向け推進していくこととなります。御来場の皆様におかれましては、今後とも御協力をお願いいたします。

6. 閉会

【司会】 それでは、以上をもちまして柳川市ワンヘルス推進大会を終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。(拍手)



発行：柳川市

柳川市本町87番地1

TEL (0944) 73-8111